

「ソチ・ロス」（ソチ五輪観賞の楽しみがなくなつた喪失感）という言葉もあるようだが、同五輪での日本選手団の活躍の余韻にひたる間もなく、世間は、サッカーワールドカップや東京五輪へ期待をふくらませていく。

かく言う私も2月から新しい役職での仕事を始めた。2011年の夏、地縁も血縁もなかったこの地に不安いっぱい着任して以来、数多くの土地を訪れ、名刺を配った。お世話になった地域の方々や支えてくれた駅の社員などのご縁の深さは計り知れない。このまま大阪にでも転勤になれば

「松江ロス」が激しいだろうなと考えていた時に、「松江支店長」という任務を与えられた。山陰地域活性化の特命である。

ところで、東京オリンピック開催予定の20年は「日本書紀編さん1300年」という節目でもある。世界中の注目が日本に集まるこの年を、日本とは何か、日本人とは何かを発信する絶好のチャンスととらえ、それまでに私も、この山陰地域で何ができるかをぜひ考え、実践していきたいと思っている。

今から120年ほど前

## 山陰の魅力 今後も発信へ



松江城にて。この地をもっとワクワクさせたい

### ばかものそのまま

にそれを実践された方が、この松江にいた。小泉八雲である。かたくななまでに保守的で、昔ながらのものづくり、文化の継承にこだわる「これぞ日本らしさ」というものが、出雲の地には今も市民の生活の中に息づい

ている。八雲は、それをしてい。世界中に発信してくれた。堂々とこの地を自慢し、日本全体、そして世界へ良さを発信しているのではないか。ここには豊かな農水産資源もあるし、古くから続く独特の行事もたくさんある。松江城の国宝化、たたら製鉄の世界遺産化に至るまで、地域からどんどん言

っていくことが、日本全体の活力を引き出すことになるかと確信する。

17年春の運行開始を目指し、豪華寝台列車の開発プロジェクトに私も携わることになった。列車自体にスポットが当たることほもとより、これを契機に山陰地域の資源の豊かさ、そして人のあたたかさ、そして世界中の注目が寄せられることを期待している。そのために、私もこの山陰地域の一員として、まだまだ仕掛けを考えていきたい。

私もそろそろ「よきもの」でも「わかもの」でもなくなってきたつある。でも、日本一の「ばかもの」として、これからは島根、そして日本を、ますますワクワクさせていきたいと思う。

(内山興・前JR松江駅長、現JR松江支店長)

おわり

